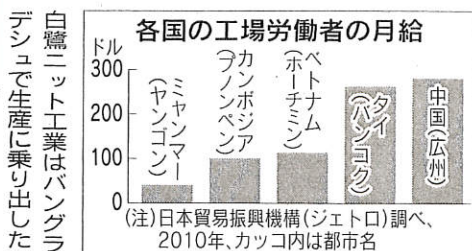


国内の中堅・中小



白鷺ニット工業はバンクラデシュで生産に乗り出した

「新・新興国」進出じわり

国内の中堅・中小企業が、カンボジアやバングラデシュなど「新・新興国」に生産拠点を築き始めた。中国やタイなどで人件費が上昇しており、新興国への進出メリットが薄れているためだ。豊富な労働力も魅力。インフラ整備などに課題を残しているが、進出企業は衣料品製造のような労働集約産業ばかりでなく、IT(情報技術)分野にも広がっている。

カンボジア ベトナムなど

衣料品製造やIT分野

新・新興国は新興国に次いで経済発展すると見込まれる諸国。明確な定義はないが、アジアではベトナムやカンボジアなどが含まれる。

野司社長はカンボジアのタイセン経済特区に総額約300万ドル(約2億3000万円)を投じ、日本市場向けにデザイン性の高い手袋の新工場を建設する。2012年2月に稼働する予定で、約

400人の従業員を現地採用する。年間100万対を生産する。

スワニーは中国でも5工場を運営し、年400万対の手袋を生産している。しかし「人件費高騰に加え縫製工の転職が続き、採用が難しくなっている」(板野社長)ため、生産拠点を分散する。

カンボジア日本人商工会の正会員数は69社にのぼる。11年度に入って加

盟した18社のうち7社は中堅・中小企業で、「急速に増えている」(商工会)。主な理由は賃金水準が低いためだ。

肌着製造の白鷺ニット工業(兵庫県姫路市、三木正義社長)はバングラデシュで、日本市場向けにニットを使った紳士・婦人向け肌着などの委託生産に乗り出した。ダッ

カ市郊外の現地縫製会社に生産を委託。初年度は年間120万枚の生産を見込み、2年目は同240万枚に倍増する。12年

度にはダッカ市に駐在員事務所を開設する。

ハイテク分野でも新・新興国に進出する動きが出始めている。ウェブ制作のラバーソウル(東京・中央、住友美鈴社長)とシステム開発のサイバ

ーミッシュ(横浜市、有馬治彦社長)はそれぞれ、月内にもミャンマーに全額出資子会社を設立する。

ラバーソウルは約30人を雇い、ウェブページ制作の一部を委託する。「中

賃金 中国・タイの数分の一

日本貿易振興機構(ジェトロ)によると「新・新興国」の工場労働者の賃金水準は、中国やタイといった準は、中国やタイといった

新興国に比べて低い。カンボジアは3分の1、バングラデシュやミャンマーは5分の1〜7分の1という。

日本に対する国民感情も良好とされる。「賃金高騰では同国を横断する幹線道

路の舗装が完了したが、電力などのインフラ整備はこれから。主要産業は農業で、工場勤務経験者が少なく、管理能力のある技術者を育成する必要がある。

ただ新・新興国市場では資源・エネルギー分野などを中心に中国や韓国企業の進出が先行している。日本企業には出遅れ感があるのが実情だ。

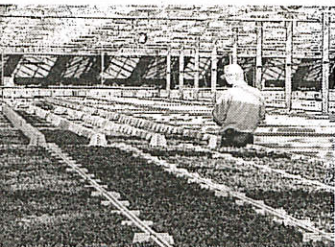
産生

デルへの訴え取り下げ

着端子製造 侵害部品 変更

日本着端子製造(大阪市、吉村正雄社長)は同社の特許を侵害したとして、米デルに対し一部のノートパソコンの輸入

を製造するのは台湾や中国にあるEMS。製造委託元のパソコン大手が部品調達をきめ細かく管理するのは難しく、特許侵害に遭っても、紛争処理が難しかった。デルのEMSへの指示は、中堅・中小の電子部品メーカー



関西に豆苗専用工場

村上農園、大消費地へ供給

発芽野菜を生産、販売する村上農園(広島市、村上清貴社長)は2014年にも、関西地方に豆

苗の専用工場を新設する。投資額は10億円弱になる見通し。現在、関西

北部の複数地点を候補とした工場と同じ、月200万パックにする計画だ。

を目指す。

県北杜市に豆苗の専用工場を立ち上げ、首都圏向けの供給能力を増やしたばかり。関西の拠点の生産能力も北杜市に新設した工場と同じ、月200万パックにする計画だ。